創価大学教育学論集　第76号【研究ノート】：吉田　pp. 261～274

総合的な学習の時間における
地域教材の活用に関する研究

吉田　和義

1　序論

総合的な学習の時間は、1998年の学習指導要領の改訂において創設され、その後2008年及び2017年の学習指導用要領の改訂を経て、創設から現在に至るまで30年以上が経過した。総合的な学習の時間[1)]の目標は、「探究的な学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」ことであるとされる（文部科学省、2018）。

学習の目標を達成するために、それぞれの学校段階で授業が実践される。授業を構想するための重要な要素には、学習方法と学習内容の２者がある。一般に各教科では、学習指導要領において学習内容が規定される。しかし、総合的な学習の時間では、学習内容は示されておらず、各学校で計画を作成するようになる。

具体的な学習内容は示されないものの、追究する課題の事例として「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」、「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」、「児童の興味・関心に基づく課題」などが示される。「地域や学校の特色に応じた課題」では、地域における教材を活用し、授業を構成することが想定される。

地域教材は、学校が帰属する地域に関わる教材である。学区域を中心とした身近な地域に関わる教材、並びに学校が所在する市区町村や都道府県に関わる教材が含まれる。地域教材は、科学的、学問的な見地からその価値が認められるとともに、学習者の興味・関心の対象となり、学習者によって意味づけが行われる。地域教材は、地域にある施設、建造物などの実物を始め、地図、文献、写真、動画などの資料、人材や組織など幅広い事象が含まれる。これらの地域教材は、総合的な学習の時間のみならず、社会科、理科、などの他教科においても学習に活用される。社会科においては、広く地域に存在する社会的事象が地域教材と考えられ、総合的な学習の時間にいても、様々な地域的事象が教材となる。

社会科の学習において地域を取り上げる利点について、古川・寺師・中村（1980）は、以下の４点を挙げている。すなわち、「１地域の事象などを直接的に観察できる。」「２児童の生活経験を活用することができる。」「３多様な資料を多く活用することができ

る。」「４地域に対する愛情や地域社会の一員として自覚をもたせやすい。」である。これらは、総合的な学習の時間においても充分に当てはまると考えられる。さらに、教科横断的な学習を進めるためにも、また最終的に学習者の地域への参画を進めるためにも、フィールドワークによって直接の見学観察が可能な地域の多様な事象は、教材として価値が高い。

一方、地域教材を活用する地域学習は、「地域について知り、地域を理解し、地域に働きかけながら学ぶこと」だとして、地域学習の神髄は、批判的思考力を用いた課題の発見とその解決方法の提示、解決のための実践行動にあると主張される（柏木、2018）。地域学習では、地域への理解を深めるのみならず思考力や行動力を育成することを志向している。また、佐藤（2015）は、地域学習では地域の主体性、自立性にもとづく「人間性の復興」と持続可能な地域社会のあり方を探求する英知を養うための教育・学習の展開が求められているとする。持続可能な社会の担い手を育成するためにも地域学習が重要だと考えられる。総合的な学習の時間においても、地域教材を有効に活用し、学習を組み立てることが求められる（宮崎、2000）。従来から、地域教材を活用した総合的な学習の時間の授業実践が報告されてきた（愛知県一色町立全小・中学校・寺本、2005・吉田、2000・吉田、2003）。本研究では、主として小学校を例に総合的な学習の時間における地域教材の有効な活用の在り方について検討することを目的とする。

２　学習指導要領における総合的な学習の時間の位置付けと地域教材

総合的な学習の時間は、1998年版の学習指導要領では、ねらいに「（１）自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。」と示される（表１）。学習方法については、課題を設定し、それを解決する学習が展開されるように示唆される。

学習内容については、「例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題など」と例示がある（表２）。この中で「地域や学校の特色に応じた課題」は、地域教材の活用に直接結びつき、この学習を展開するためには、学校が所在する地域についての教材研究が不可欠である。

2008年版では、目標は「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」と示され、「探究的な学習」という用語が付け加えられた。学習内容については、「例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題」、続いて「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」と示され、追究する課題について例示される。「人々の暮らし、伝統と文化」という

用語が追加され、地域の中から教材を求め、学習に活用することが示唆される。

2017年の学習指導要領では、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成することが示され、「探究的な学習」の方向性がより明確になる。学習内容については、「各学校において定める目標及び内容の取扱い」において「例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題」と示され、「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」の表現は2008年の学習指導要領を踏襲している。

総合的な学習の時間の年間授業時数に関しては、1998年版では第３・４学年が105時間、第５・６学年が110時間であった（表３）。2008年版以降は、第３学年から第６学年まで70時間となり、減少する。生活科、社会科、理科の年間授業時数と比較すると、2017年版では、第３学年社会科が70時間となり、総合的な学習の時間と同等である。それ以外は総合的な学習の時間が若干が少ない。週当たりの授業時間数は、総合的な学習の時間が２時間となる。創設当初と比較して、総授業時数は増加し総合的な学習の時間の年間授業時数は減少している。

このように総合的な学習の時間の目標においては、学習方法について探究的な学びを実現するよう示している。学習内容については、具体的な言及はないものの、「地域や学校の特色に応じた課題」という記述があり、地域の中から教材を探し、それを活用して学習を進めることが求められる。地域教材は、学習者の身近に存在することから、学習者との距離が近く、具体的な教材を活用できるという利点があり、見学、観察、調査などのフィールドワークの活動を実施できる。さらに学習者が興味・関心をもち易く、地域教材には主体的な学習、探究的な学習を展開する基礎が整っているといえる。

表１　小学校学習指導要領における総合的な学習の時間の目標等

年次	項目	記述
1998年	ねらい	１総合的な学習の時間においては、各学校は、地域や学校、児童の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものとする。 ２総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。 （１）自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。 （２）学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。
2008年	目標	横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

2017年	目標	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）　探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 （2）　実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理･分析して、まとめ･表現することができるようにする。 （3）　探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

（文部科学省学習指導要領により作成）

表２　小学校学習指導要領における総合的な学習の時間の内容に関する記述

年次	項目	記述
1998年	総則	例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。
2008年	指導計画の作成と内容の取扱い	（５）学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと
2017年	各学校において定める目標及び内容の取扱い	（５）目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること

（文部科学省学習指導要領により作成）

表３　小学校における総合的な学習の時間及び教科の年間授業時数

年次	教科等	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
1998年	総合的な学習の時間			105	105	110	110
	社会			70	85	90	100
	理科			70	90	95	95
	生活	102	105				
	総授業時数	782	840	910	945	945	945
2008年	総合的な学習の時間			70	70	70	70
	社会			70	90	100	105
	理科			90	105	105	105
	生活	102	105				
	総授業時数	850	910	945	980	980	980
2017年	総合的な学習の時間			70	70	70	70
	社会			70	90	100	105
	理科			90	105	105	105
	生活	102	105				
	総授業時数	850	910	980	1015	1015	1015

（文部科学省の資料により作成）

３　総合的な学習の時間における地域教材の活用事例

（１）富士山学習の特色

地域教材を活用した総合的な学習の時間の好例として、静岡県富士宮市で行われる「富士山学習」が挙げられる（「富士山学習」研究会、1999・茂田、2019・長倉、2021）[2)]。富士山学習の特色は第一に、富士山と富士山に関わる地域教材を学習に活用している点である。富士山は、世界文化遺産に登録され、歴史的文化的にも、また自然環境としても教材としての価値が高い。第二に、富士山学習は30年以上に渡り継続されていることである。富士宮市の富士山学習は、1991（平成３）年に富士宮市立富士宮第二中学校で実施された富士山を教材とした授業が始まりとされる（「富士山学習」研究会、1999）。1997年度には、富士宮市の施策として富士山学習に取り組むようになった。2008年に富士山学習partⅡとなってより発展し、2023年現在も継続されている。第三に富士宮市が施策の一環とし取り組み、市立のすべての小学校、中学校が富士山学習に関わっている点である。各小中学校の教育計画に富士山学習が位置づけられ、富士山学習発表会が、毎年実施されている。地域教材を活用した学習が、長年に渡って実践され、成果を挙げてきた[3)]。

（２）富士山学習の目標と内容

富士山学習の市の施策としてのねらいは、当初以下のように設定された（資料１）。このねらいに基づいて各学校の教育計画が作成される。ねらいには「富士山と自分たちの生活（暮らし）とのかかわりを調べ」と示され、富士山との関りを調査する活動が位置づけられる。そして、郷土富士宮に生まれ育つ喜びと誇りをもつこと、心身の力を試し、やり遂げる心と体力を育てることをねらいとしている。富士山学習を通して、富士宮の小中学生がよりよく生きることを目指している。

・自分の生まれ育った富士宮の「文化遺産」富士山と触れ合い、親しみ、調べることにより、富士山の美しさや偉大さを知り、感動する心を養う。
・富士山と自分たちの生活（暮らし）とのかかわりを調べ、富士山の大切さに気付き、郷土富士宮に生まれ育った喜びと誇りをもち、21世紀に生きる勇気と自信を育む。
・富士山に寄り添い、富士山に支えられて、心身の力を試し、やり遂げる心と体力を育てる。

資料１　富士山学習のねらい

（「富士山学習」研究会1999による）

探究的な見方・考え方を働かせ、富士山や富士宮の「人 もの　こと」とかかわり、横断的総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、郷土への誇りや愛情をもち、自己の生き方を考えるために必要な資質能力を身に付ける。

資料２　富士山学習PARTⅡの目標

（富士宮市教育委員会ホームページによる）

2021年度から新たな目標の基で富士山学習が実践される（資料２）。富士山についての知識を獲得することのみならず、富士宮地域との関わりを通して課題を解決し、自己の生き方を考えるための資質能力を身に付けることを目標としている。富士山という地域教材を最大限活用し、地域への理解と愛情を深めるとともに、より良い生き方を追究するための学習を富士宮市として実施しようとする姿勢が示される。

（３）小学校における富士山学習の展開　－大宮小学校の事例－

静岡県富士宮市立大宮小学校における富士山学習では、総合的な学習の時間で富士山に関わる学習が展開される。総合的な学習の時間の名称を「岳麓洞（がくろくどう）」と名付け、教科と関連を図りながら実践してきた（「富士山学習」研究会、1999）。

大宮小学校の富士山学習では、以下の様な内容で学習が進められ、実践された（表４）。

表４　大宮小学校における総合的な学習の時間の内容例

学年	学習単元・内容	
第３学年	たんけん！やさしさ発見	富士宮市に住むお年寄りと仲よくなりたいな
第４学年	美しい富士宮、今、そして未来へ	富士宮の自然を守りたいな
第５学年	青い星、ぼくもわたしも地球人	富士山のことをもっと知り、自然を守りたいな
第６学年	世界を知ろう、ぼくらは夢の国際人	世界の国を知り、世界に富士山を知らせたいな

〔「富士山学習」研究会（1999）による〕

地域教材としての富士山自体について詳しく理解するための学習が位置づけられる。第５学年では、富士山についての調べ学習に取り組み、さらにフィールドワークを行う。実際に富士山に登山し、宝永山では宝永火口を見学する。そして、この学習の後半では、「富士山の自然を守っていくための学習」が展開される。このように、富士山についての理解を深める学習が基礎となり、環境を保全するための取り組みについての学習に発展していく。

富士宮市における富士山学習は、地域教材を取り上げ、富士山をテーマとした学習を推進し、さらに発展させる学習となっている。大宮小学校以外の各小中学校においても地域の特色に応じた富士山学習を組み立てている。

（４）地域教材としての富士山

富士山は、地域教材として極めて価値が高い。自然、文化、歴史などの側面において教材を提供する。富士山学習では、地域教材を活用し総合的な学習の時間を構築している。具体的に富士山への理解を深める学習が推進され、それを基礎としてさらに、富士宮地域に関する学習が進められる。例えば第４学年「美しい富士宮、今、そ

して未来へ」では、「きらきら、わくわく神田川」と題して富士宮市内を流れる神田川の教材化に取り組んでいる。富士山そのものの学習から発展し、富士宮地域の水をめぐる環境や水利について学習を組み立てる。長期に渡って地域教材を核とした富士山学習を継続できる要因の一つは、富士山と富士宮地域における地域教材の価値の高さ、多様さにあると考えられる。また、富士山自体に留まらず、富士宮地域の事象へ学習を発展させる組み立てが、学習の効果を高める。

４　総合的な学習の時間の地域教材としての滝山城

東京都八王子市にある滝山城跡を事例として、総合的な学習の時間における地域教材の活用について検討する。この地域は八王子市の北部に位置し、東流する多摩川の右岸に当たる。滝山城跡が立地する加住丘陵は、多摩川の上位段丘面である多摩面とその地形面が多摩川の支流である谷地川によって浸食された谷から形成される起伏の多い地形である（貝塚、2011）。谷地川の谷を境に加住北丘陵と南丘陵に区分される。

（１）滝山城の地域教材化

滝山城跡は、1951年に史跡に指定された[4)]。加住丘陵の北丘陵に位置し、本丸跡は丘陵の頂上付近にある。滝山城は、戦国時代に関東を支配した北条氏の居城で、本丸跡、堀、土塁などの城郭の遺構が保存されている（田中、2007・八王子市史編さん委員会、1967）。2018年に公益社団法人日本城郭協会の選定する「続日本の100名城」に選ばれた[5)]。2020年には文化庁により高尾山が「霊気満山高尾山　－人々の祈りが紡ぐ桑都物語－」として日本遺産に指定され、その構成要素の一つに滝山城跡が含まれた[6)]。戦国時代の歴史資料としての価値が高く、観光のスポットとしても注目される。滝山城の遺構がある都立滝山公園は、桜の名所としても知られ、春はお花見の観光客でにぎわう。歴史的文化的な価値が認められるとともに、自然環境とその保全についての教材としての価値があると考えられる。

（２）地域教材としての要素

①戦国時代の城郭遺構

城郭遺構として、本丸、空堀、土塁、虎口、曲輪、土橋などの遺構が残されている。滝山城は、16世紀の戦国時代に大石定重、定久が築城し、その後永禄年間に北条氏照が改修し、居城としたとされる。天正年間1587年ころに北条氏照が八王子城に居城を移すまで、滝山城が居城となり、支配の拠点となった（田中、2007）。空堀、土塁などの遺構が現存し、本丸には枡形虎口の遺構が残される（写真１）。

写真１　滝山城跡の枡形虎口の遺構　正面は土塁
（2022年１月21日筆者撮影）

②滝山城城下町の道路遺構と関連遺構

滝山城の城下には、街道に沿って城下町が広がっていたと考えられ、城下町特有の鍵型に曲がる道路の遺構が見られる（田中、2007）。旧版地形図から、鍵形の道路が分かり、武蔵と甲斐を結ぶ中世の街道の一部である城下町の道路の遺構が読み取れる（図１）。

加住南丘陵に位置する創価大学の地域では、発掘調査の結果戦国時代の曲輪の遺構が出土している。滝山城の関連施設が南丘陵にも存在したことが明らかになっている（丹木境遺跡調査団、2002）。

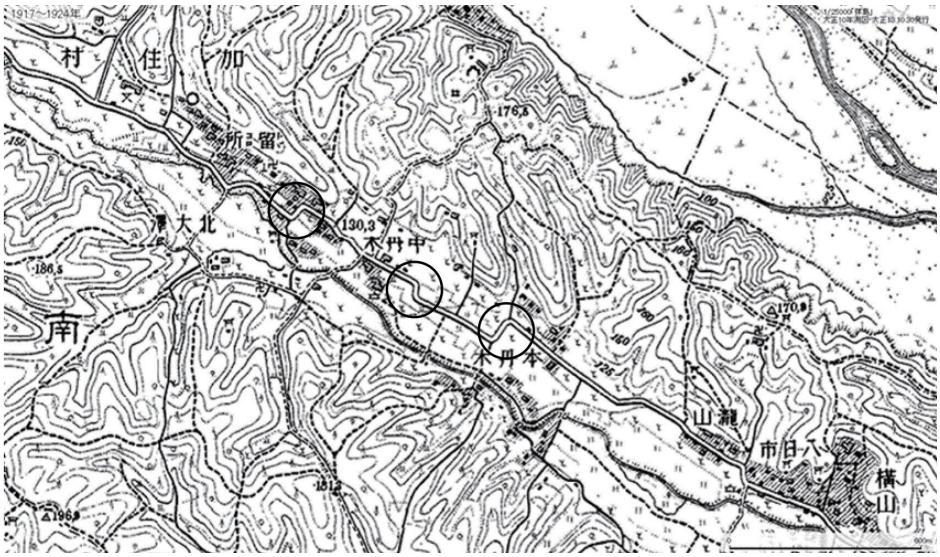

図１　滝山城の鍵形道路遺構　黒円の３箇所
（１:25000地形図「拝島」大正10年測図大正13年発行により作成　今昔マップによる）

③滝山城跡の保存と活用

滝山城跡群・自然と歴史を守る会が滝山城跡の普及、保存の活動に取り組む。滝山城跡群・自然と歴史を守る会の目的は、「滝山城を中心に、地域および広く一般市民を対象に、公園とその周縁緑地の緑地管理・環境、保全事業、公園内の文化財保全・活用事業、歴史講演会等を開催する広報活動事業、公園と史跡を起点とする町おこし村おこし事業等によって都市の自然と歴史遺産の真価を発揮させ、地域および都市文化の興隆に寄与することを目的とする。」とする[7)]。滝山城跡の保全と普及の活動を進め、滝山城の見学会や講演会を企画しており、小学生を対象とした学習会も実施している。

④加住丘陵の自然

加住丘陵の地形面は、多摩川の侵食によって作られた段丘面の上位面になる多摩面から形成される（貝塚、2011・八王子市史編集委員会、2014）。武蔵野台地を形成する武蔵野面に比較して形成時期が古く、侵食が進み起伏の多い地形となっている。丘陵地の下部は、第三紀層を中心とする円礫を含む河成層である加住層があり、上部には関東ローム層が見られる（写真２・写真３）。

写真２　滝山城跡に見られる円礫層
（2022年１月21日筆者撮影）

写真３　滝山城跡に見られる関東ローム層
（2022年１月21日筆者撮影）

（３）滝山城の地域教材を活用した学習の構想

滝山城は、地域教材としても価値が高く、総合的な学習の時間の教材として有効だと考えられる。「滝山城を探検しよう」という単元を設定し、学習計画の構想を提示する。対象は小学校第６学年を想定する。学習過程を課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・発表の４段階に区分する。課題設定では、学習者の疑問を基に追究する課題を設定する。情報収集では、フィールドワークを行い、直接見学観察することを通して、情報を集める。また、地域の「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」等と連携を図り、現地で説明を聴くことができるようにする。整理・分析では、自然の地形と

滝山城跡の関り等、複数の事象の間の関係を考慮し、分析する。まとめ・表現では、追究によって明らかになった事実をパンフレットにまとめるとともに、パンフレットを活用して発表・表現する活動を取り入れる。

小学校社会科における歴史学習は、第６学年に位置づけられ、「戦国の世から天下統一へ」などの単元で、戦国時代から天下統一へ向かう時代を取り上げる。しかし、教科書には滝山城主である北条氏照については記述が無いため、社会科の戦国時代の学習の発展として滝山城に関する学習を位置づけることができる。

（４）総合的な学習の時間の単元計画の構想

小学校第６学年における総合的な学習の時間の授業として次の学習が構想できる（資料３）。

○単元名　第６学年「滝山城を探検しよう。」（13時間）

○単元の目標

滝山城と加住丘陵について調べる課題を設定し、滝山城の築城の工夫について探究することを通して、滝山城について理解するとともに、調べたことをまとめ、発表・表現する。

○単元の評価規準

〈知識・技能〉

・中世の城郭の典型としての滝山城の特色について理解し、地図や絵図から滝山城の様子を読み取る。

〈思考・判断・表現〉

・地形と滝山城の関係や滝山城の工夫について考え、表現する。

〈主体的に学習に取り組む態度〉

・地域資料を活用して進んで調べ、グループやペアで主体的に協働して学習を進める。

過程	学習活動・学習内容	資料等
課題設定 １・２・ ３時	○滝山城の絵図を見て、分かることを発表しあう。 ○滝山城主の北条氏照について、どのような人物か予想する。 ○滝山城の城を守る工夫について予想し、疑問を出し合う。 ○滝山城について追究する課題を設定する。 「どうして加住丘陵に滝山城を築いたのか。」 「攻めにくくするために、どのような設備があったか。」 などの問いをもとに課題を話し合う。	滝山城絵図 北条氏照のイラスト
情報収集 ４・５・ ６・７・ ８時	○資料を基に滝山城の特色について調べる。 ・堀と土塁の作り ・枡形虎口 ・本丸 ・地形の特色 ○滝山城跡見学のフィールドワークを行う。 ○滝山城跡を見学し、滝山城についての説明を聞く。 ○加住丘陵の地形の特色を観察する。 ○攻めにくくするための工夫について観察する。	滝山城絵図 地形図 景観写真 滝山城跡群・自然と歴史を守る会の方のお話

整理・分析 9・10時	○滝山城の位置と役割について整理する。滝山城と地形との関連を分析する。 ○滝山城の特色をまとめる。 ○滝山城跡の自然と歴史を保存し活用するために、滝山城のこれからについて考え表現する。	地理院地図 滝山城跡群　自然と歴史を守る会の資料・ホームページ
まとめ・表現 11・12・13時	○滝山城の見学で分かってことをまとめ、「滝山城パンフレット」を作成する。 滝山城の工夫についてまとめ、表現する。 ○滝山城について調べたことを発表する。 ○さらに調べたいことについてまとめる。 ○新たな課題解決への関心・意欲をもつ。	滝山城パンフレット

資料３　総合的な学習の時間の計画（13時間）

５　結論

総合的な学習の時間における地域教材の活用に関して、学習指導要領においては地域や学校の特色に応じた課題についての指摘があり、学校が帰属する地域から教材を選定し学習を計画することが求められる。地域教材は、フィールドワークを実施することを通して学習者が直接見学観察することが可能であり、身近に存在するために興味・関心をもち易く、主体的な学習を構築する基礎的な教材である。地域教材を選定するに当たっては、教材研究を進め地域の実態に合わせて、教科等の科学的、学問的な見地から価値のある教材を見出すことが、重要である。加えて、学習者自身が探究的な学習を通して、地域教材の価値を捉える学習の構成が求められる。

静岡県富士宮市における富士山学習は、地域教材を取り入れた総合的な学習の事例である。富士山の歴史的文化的な事象及び自然環境とその保全に関わる事象などの学習に留まらず、それらと関連して富士宮地域の諸事象に関する学習を位置づけ、課題を設定し追究する学習に教科横断的に取り組むことに成功している。この事例は地域教材の活用に示唆を与える。

八王子市にある滝山城跡は、歴史的文化的な要素では中世の城郭史上の貴重な遺構が残り、加えて丘陵地の成り立ちと自然環境を観察できる露頭が見られ、環境の学習や環境保全に関する要素を含み、教材としての価値が高いと考えられる。総合的な学習の時間において、地域教材は学習指導要領において強調される探究的な学習を実践するための教材とし有効であり、そこに展開される自然と人文を含めた多様な事象は、教科横断的な学習の基礎を提供する。総合的な学習の時間では、価値の高い地域教材を開発することが重要であり、それを活用して学習を構想することが探究的でより深い学習を成立させることに大きく寄与する。さらに、地域の良さを理解し、地域に参画する態度の基礎を養うことに結び付く。

注

１）現行の高等学校の学習指導要領は、2018年に告示され、総合的な学習の時間は、

総合的な探究の時間と名称が変更された。

2）山梨県で実施される「富士山学習」については、馬場（2018）の報告がある。

3）静岡県富士宮市は、小学校21校、中学校13校がある（富士宮市教育委員会、2023)。富士山学習の発表会は、毎年１月に実施される。

4）文化庁ホームページによる。
https://bunka.nii.ac.jp/db/heritages/detail/138237（2024年１月１日閲覧）

5）日本城郭協会ホームページによる。
http://jokaku.jp/japan-top-100-castles/best-100-castles-of-japan- 2 nd-selection/（2024年１月１日閲覧）

6）日本遺産ホームページによる。
https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story088/（2024年１月１日閲覧）

7）NPO法人「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」の資料による。

文献

愛知県一色町立全小中学校著・寺本潔監修『小中一貫生活総合の学び』黎明書房，2005年.

貝塚爽平『東京の自然誌』講談社（学術文庫），2011年，旧版は紀伊国屋書店1979年刊.

柏木智子「総合的な学習の時間と地域学習」森田真樹・篠原正典編著『新しい教職教育講座　教職教育編８　総合的な学習の時間』ミネルヴァ書房　2018年，pp.188-203.

佐藤一子編『地域学習の創造　－地域再生への学びを拓く－』東京大学出版会，2015年，pp.1-23.

茂田優作　「山梨県・静岡県における『富士山学習』の特色と課題」2018年度創価大学教育学部卒業論文，2019年（未刊行）.

田中正光『よみがえる滝山城－戦国の風雲をかけぬけた天下の名城－』NPO法人滝山城跡群・自然と歴史を守る会，2007年.

丹木境遺跡調査団編『丹木境遺跡　平成７・８年度発掘調査報告書』創価大学発行，2002年.

長倉　守「総合的な学習の時間のカリキュラム開発の支援に関する教育委員会の在り方　－静岡県富士宮市『富士山学習』における教育長のビジョンに着目して－.学校教育研究36，pp.90-104，2021年.

八王子市史編さん委員会『八王子市史　下巻』八王子市役所発行，1967年，pp.410-427.

八王子市史編集委員会『新八王子市史　自然編』八王子市発行，2014年

馬場　章「富士山学習支援事業における小学校 6 年理科学習プログラムの実践と課

題」富士山研究12，pp.1-９，2018年.
「富士山学習」研究会編『総合的な学習　富士山学習　－知りたい、学びたい、共に生きたい－』国土社，1999年.
富士宮市教育委員会『富士宮の教育』富士宮市教育委員会発行，2023年.
古川清行・寺師信之・中村満洲男編著『地域学習の基本と実践』東京書籍，1980年.
宮崎猛編『高校「総合的な学習」研究と実践の手引き』明治図書，2000年.
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編』東洋館出版社，2018年.
吉田和義「小学校における『総合的な学習の時間』を活用した地理教育の可能性－第６学年『江戸時代の大町村』の単元を通して－」新学習指導要領と地理教育，（日本地理教育学会）pp.18-22，2000年.
吉田和義「小学校における『総合的な学習の時間』を活用した地理教育の試み－ 第５学年「長峰のすてきな場所を紹介しよう」の活動を通して－」日本地理学会発表要旨集63，p21，2003年.
参考ホームページ
時系列地形図閲覧サイト「今昔マップon the web」
https://ktgis.net/kjmapw/（2024年１月１日閲覧）
富士宮市教育委員会
http://www.city.fujinomiya.lg.jp/citizen/llti２b000000rn92.html（2024年１月１日閲覧）

Investigating the efficacy of local teaching materials in the period of integrated study

Kazuyoshi YOSHIDA

This paper aims to clarify the effectiveness of indigenous teaching materials in local areas within the integrated study period framework. Emerging from the renewal of the national curriculum standards for elementary schools in 1998, the integrated study period spans from grades three through six in Japanese elementary schools.

Learning experiences rooted in local areas, including fieldwork, are pivotal not only in geography but also in integrated studies. Teachers can utilize various teaching materials in the local area, including human, physical, geographical, and historical phenomena. Children derive affective benefits by incorporating a comprehension of local places and engaging with community members. They acquire a positive attitude toward learning through a period of integrated studies in local areas.

Integrated studies on Mt. Fuji lasted for over 30 years in Fujinomiya City, Shizuoka Prefecture. Furthermore, the Takiyama castle ruins in Hachioji City, Tokyo, serve as valuable resources for inquiry-based learning. Outdoor research enables children to better understand their surroundings and locality. This learning enhances a positive attitude toward planning inquiries in the local area.